



子供のころ、

車でいろんなところに連れて行ってもらった。  
日々の送り迎えはもちろんのこと、  
スキー場やちょっとした旅行にも車で行った。

小さいころは時間がゆっくり過ぎるから、  
遠出となるとすぐにしびれを切らして

後部座席から身を乗り出し

ハンドルを握る父に、

「あとどんくらいで着くが？」  
と何度もたずねた。

買い物に連れて行ってくれたのは母だ。

本屋さんやCDショップへ。

塾や、友達との待ち合わせ場所へも、

毎日のように車を出してくれた。

運転はあんまり得意じゃないのに。

思春期のわたしの態度は、相当腹が立っただろうに。

あんなに何千回、

もしかしたら何万回と乗ってきたのに

毎回確実に、安全に運んでくれたなんて、

よく考えたらすごい。

富山を離れてからも年に何度となく帰省して、  
そのたびに車で迎えに来てくれた。

あるときは父だったり、母だったり、

お兄ちゃんが来てくれることもあった。

誰も来なくて、駅で途方に暮れたことは

一度もなかった。

そんないとなみを繰り返すうちに大人になった。  
わたしだけじゃなくて、たぶんみんなそう。

—— 山内マリコ

*Mariko Yamachi*  
2015.1/1

これからも、あなたの暮らしを乗せて。



**富山ダイハツ販売(株)**

山内マリコ

1980年富山県生まれ。2008年「女による女のためのR-18文学賞」読者賞を受賞。2012年小説「ここは退屈迎えに来て」でデビュー。著書に「アズミ・ハルコは行方不明」、「さみしくなったら名前を呼んで」（いずれも幻冬舎）がある。  
最新刊は「バリ行ったことないの」（CCCメディアハウス）。 ○FMとやま「富山ダイハツ 山内マリコのオケイトーク」毎週金曜 午前11:30～